文連NEWS

2023年2月21日（火）発行
文化団体連合会
tel：090-2331-4456
mail：waseda-bunren@hotmail.co.jp
HP：https://waseda-bunren.jimdo.com
文連ツイッター

2023年度後期定例文連総会を実現しました！

新歓活動をはじめとした来年度の文連の活動方針を確立
23年度文連委員長に神原拓洋君（国際問題研究会）を再任

私たち文化団体連合会は２月２日、2022年度後期定例文連総会を学生会館で開催しました。この場で、今秋冬期の文化サークル活動の地平を確認し、来たる2023年度の新歓活動や「サークル補助金増額」「改憲反対」を課題とする常任委員会提出の議案を賛成10の満場一致で採択しました。続いて23年度の常任委員が選出され、神原拓洋君（国際問題研究会）が委員長に再任されました。

総会では議案をめぐって５点にわたり活発に討論が行なわれました。１点目に、年間活動を集約する音楽演奏会や演劇公演、発表会などを、感染拡大の第８波や急激な物価高騰によるサークル財政の逼迫に直面しながらも、懸命に工夫して実現してきたことを出席した幹事が誇りをもって報告しました。

神原委員長はこのようなサークル文化活動の前進を、昨年７月の総会以降も文連加盟サークルが先頭になって当局・学生部に要求し、合宿の解禁やサークル活動施設の人数制限の大幅な緩和をかちとって切り拓いたことを明らかにしました。さらにこのことは、新型コロナ感染拡大下の３年のあいだ、対面でのサークル活動の制限が行われるたびに、そのつどサークルの声をまとめ学生部に対して規制の緩和を求めるとりくみをつみ重ねて切り拓いた画期的な地平であることを明らかにしました。こうしたサークルどうしの団結の重要性を全体で確認しました。

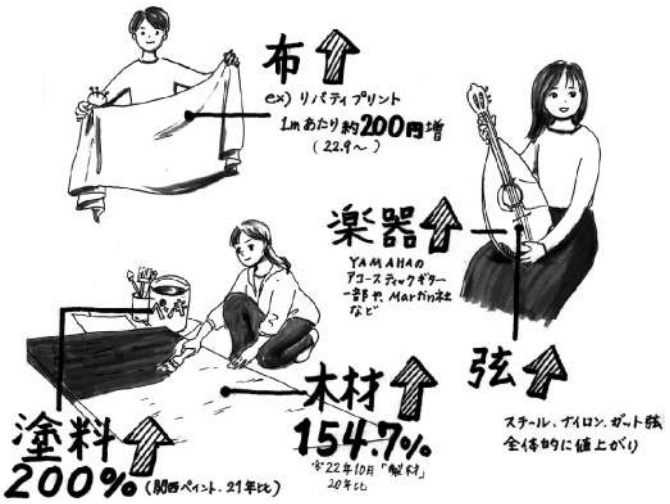
２点目に、23年度の新歓活動について神原委員長が、文連の要求によって新歓ブースの設置に加え、文化系サークルの作品展示や新歓ビラの配架も新たに認めさせ新歓活動の拡大をかちとったことを報告し、これにふまえていかに多くの新入生をサークルに迎え入れるかについて討論が白熱しました。対面での新歓活動の経験が少ない新しい幹事たちにたいして、常任委員会が、コロナ以前の新歓活

昨年４月５日の授業開始日に、サークルの宣伝活動でにぎわう大隈銅像前。

今年の新歓活動はブースを活用して新入生を対面でドシドシ勧誘しよう！

動の様子や新歓ブースで上級生が新入生に説明している写真を使いながら紹介すると、幹事は対面で新入生にドシドシ働きかけ賑わう４月のキャンパスのイメージを大いにわかせました。そして、サークル活動の面白さにとどまらず、なぜ自分がこのサークルに入ったのかを熱心に語る先輩の〝人間力〟にもひきつけられて入会したことなどを思い出しながら語り合い、今度は自分がそうした働きかけを行う意欲を述べ合いました。

３点目に、昨今の物価高騰にともなうサークル財政の逼迫した状況を打開するために、20年間にわたり一度も増額されていないサークル補助金の大幅な増額が急務であることを意思一致しました。その場合に、「世界トップクラス」の大学となるために研究施設や設備投資に莫大な資金を投じる一方で、収益が上がらないとみなした文系の研究分野を軽視する早大当局・理事会の姿勢が、きわめて貧弱な文化活動支援の現状につながっていることを批判する意見も出されました。



サークル活動に必要なモノの値段が軒並み上がっている！

４点目に、「安保三文書」に大学における軍事研究の推進が盛り込まれたこんにち、サークルから岸田政権の憲法改悪に反対する声をあげていくことを呼びかける常任委員会の方針についても討論になりました。研究サークルの幹事は、サークルで改憲問題を批判的に研究してきたことを基礎に、緊急時に国民の基本的人権を制限する権限を首相に与える自民党改憲案の緊急事態条項が、「言論・表現の自由」にもとづく文化活動の制限にもつながりかねないことに警鐘を鳴らしました。この発言に対する共感の声が参加したサークル員から上がりました。

最後に、大学における自治・サークル活動への規制が全国的に強まっていることに対して、自治会や文連のもとに学生やサークルが結束してはねかえしていることが出席したサークル員から紹介され、全国の学生と連帯し、早稲田のサークルの団結の拠点である文連をいっそう強化していくことを確認して論議をしめくくりました。

文連加盟サークルは本総会で確立した方針にのっとり、来たる2023年度の新歓活動を大成功させサークル文化活動をさらに力強くつくりだす出発点を打ち固めました。

すべてのサークル員のみなさん！　来たる2023年度、文連のもとに団結し、一致協力して早稲田サークル文化のさらなる前進を切り拓きましょう！